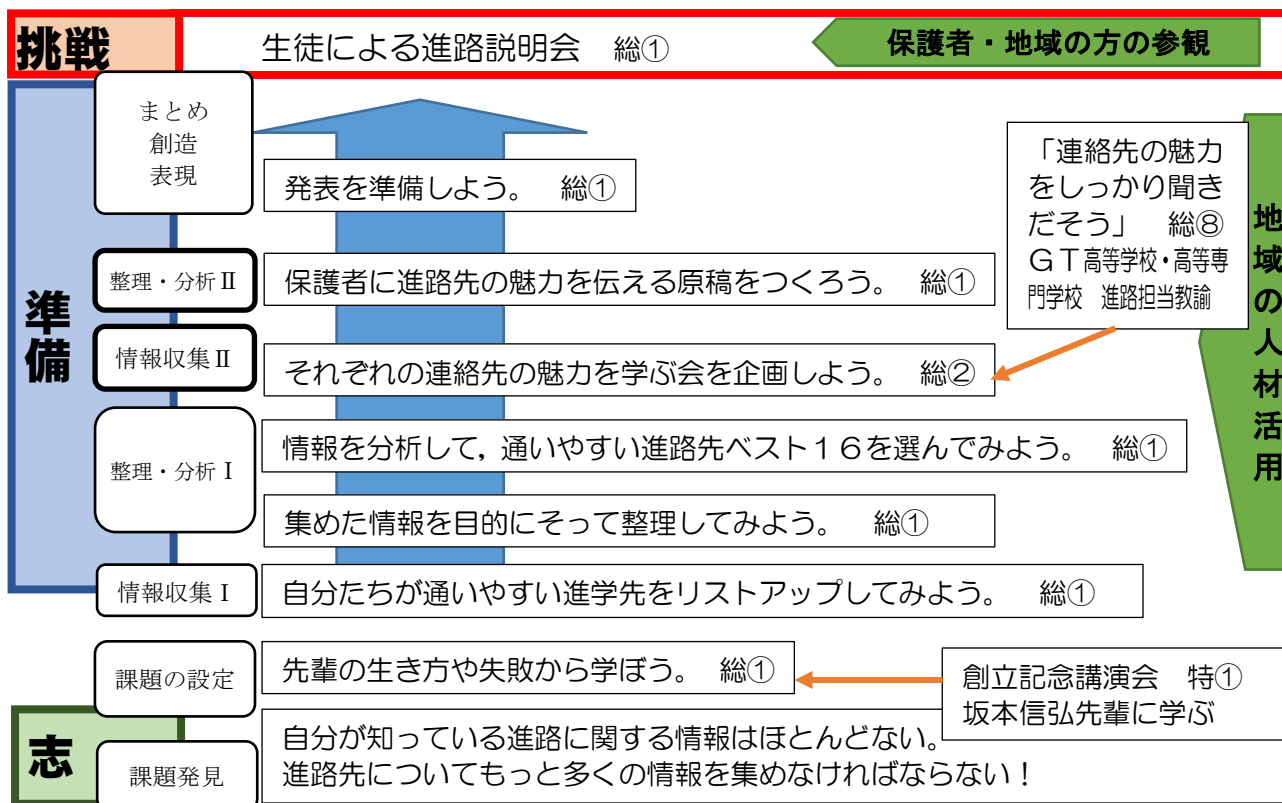


教科横断・社会接続型
 (総合的な学習の時間を出発点に(中3))

先輩の経験を参考にして、よりよい生き方探しに向け仲間と協働して情報収集、整理・分析することを通して、進路に対する視野を広げるとともに、得られた情報を保護者やクラスメートへ発信するためのプレゼンテーションやスピーチを通して、各自の進路選択に向けての自立的な態度と支援環境を向上させる活動をマネジメントした。

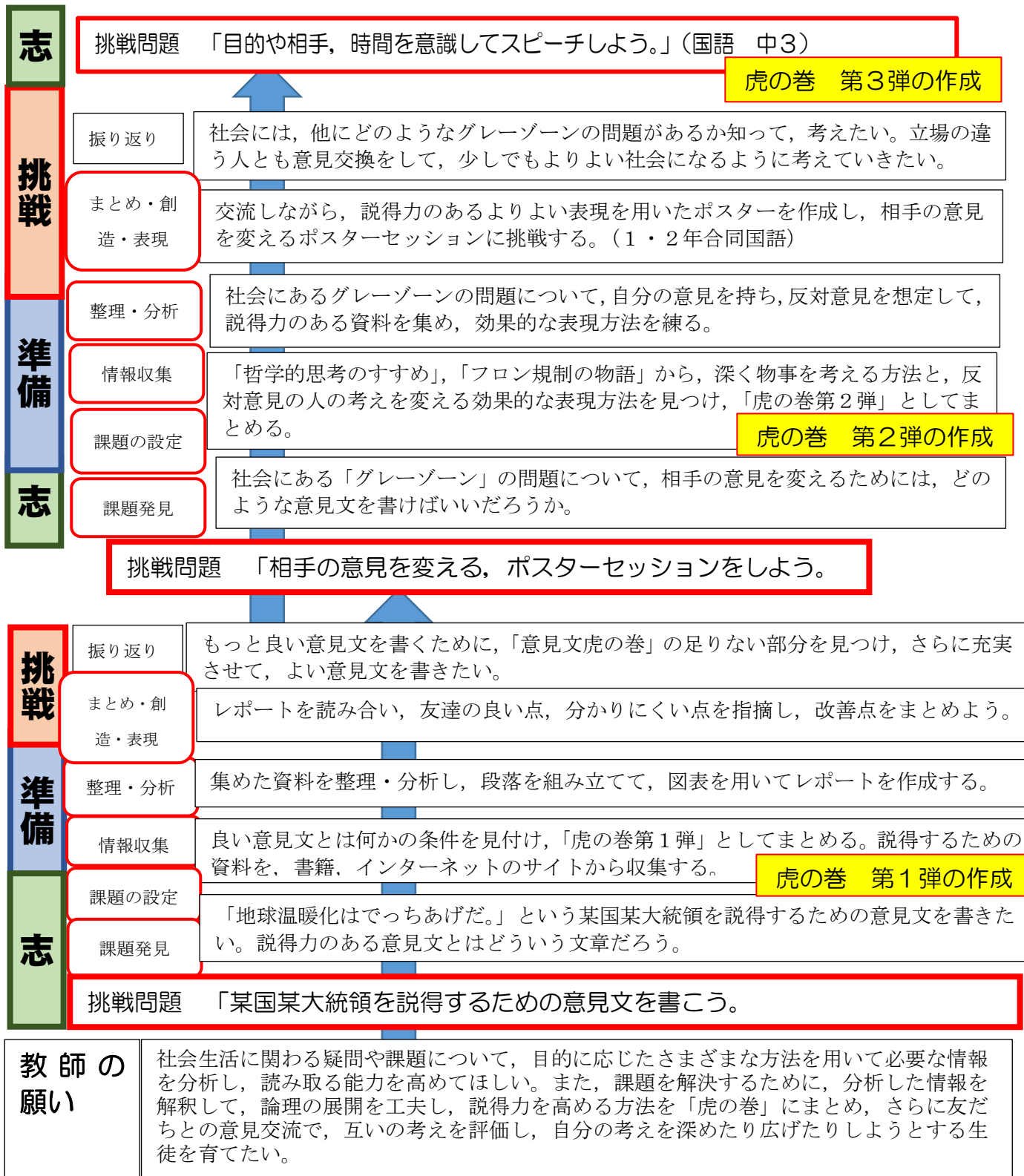


挑戦問題 みんなによるみんなのための道探し

教師の願い 仲間と協働して情報収集し、それを保護者とも共有することで進路先に対する負の先入観を無くし、よりよい生き方探しをしてほしい。

単元接続型
(中1国語+中2国語+中3国語)

挑戦問題「説得力のある意見を伝えるための『虎の巻』をつくろう」を提示し、中学校3年間を通した書く力、話す力を身に付け、思考力・表現力を完成させる一つの冊子を作成する。1年から3年まで「書くこと」の項目で、それぞれ問題解決に必要な知識や技能を習得し、課題を解決するために、分析した情報を解釈して、論理の展開を工夫し、説得力を高める活動をマネジメントした。



教科横断・社会接続型
（各教科の学習を通して）

社会科の学習を通して、現代の日本の特色や社会の見方や考え方を学習した。これらの学習を生かして、持続可能な社会の観点からより良い社会をつくって行くためにはどうすればよいかを、「もし自分が総理大臣になったら」というテーマでどのような政策に取り組みばよいかをレポートにまとめてみる。

挑戦

社会(中3) 「もし自分が総理大臣になったら、どんな日本にしたいか。」をレポートにまとめよう。

準備

総合(中3) 未来貢献プロジェクト

家庭(中3) 私たちの成長と家族や周囲の人々

国語(中2) 意見文の書き方2

家庭(中2) より良い消費生活をめざして

家庭(中2) 持続可能な社会をつくる

理科(中2) 地球と私たちの未来のために

国語(中1) 意見文の書き方1

挑戦

社会(小6) 「世界の平和と発展のためにこれからの日本、自分ができることを意見文にまとめよう」

準備

社会(小6) 新しい日本 平和な日本へ

社会(小6) 世界の未来と日本の役割

志

挑戦問題 もし自分が総理大臣になったら、どんな政策を行うか。

教師の願い

自分たちの住む国をより良くするための方策を考えることができる

教科横断型
(数学+技術家庭科)

挑戦問題「掛け軸の謎を解こう！」で抱いた志を叶えるために、「平方根」の単元で知識・技能をしっかりと身につけ、具体的な場面での数量やその関係について数の平方根の有用性を実感する経験をさせ、掛け軸のさしがねの角目の仕組みを協働して解明することを通して、さらにさしがねの謎や掛け軸の人物（聖徳太子）とさしがねの関係（日本古来の建築技術）の探求への意欲を高めることができるカリキュラムにマネージメントした。

挑戦

技術(中3)「掛け軸の謎を解こう！」

もっとさしがねの謎を解きたい！

技術家庭科へ

さしがねの丸目はどうやって使うものだろう。

さしがねに書いてある文字の意味はなんだろう。

掛け軸の人物はどうしてさしがねを持っているのだろう？

この掛け軸は何のために作られたのだろう。 etc.

挑戦問題「掛け軸の謎を解こう！～さしがねの秘密～」の解決

準備

予習課題
復習課題
の設定

ICTの
活用

評価の工夫

① 平方根の定義と意味を理解する。
② 平方根の加減乗除のしくみを解明する。
③ 根号をふくむ式の計算の習熟。

志

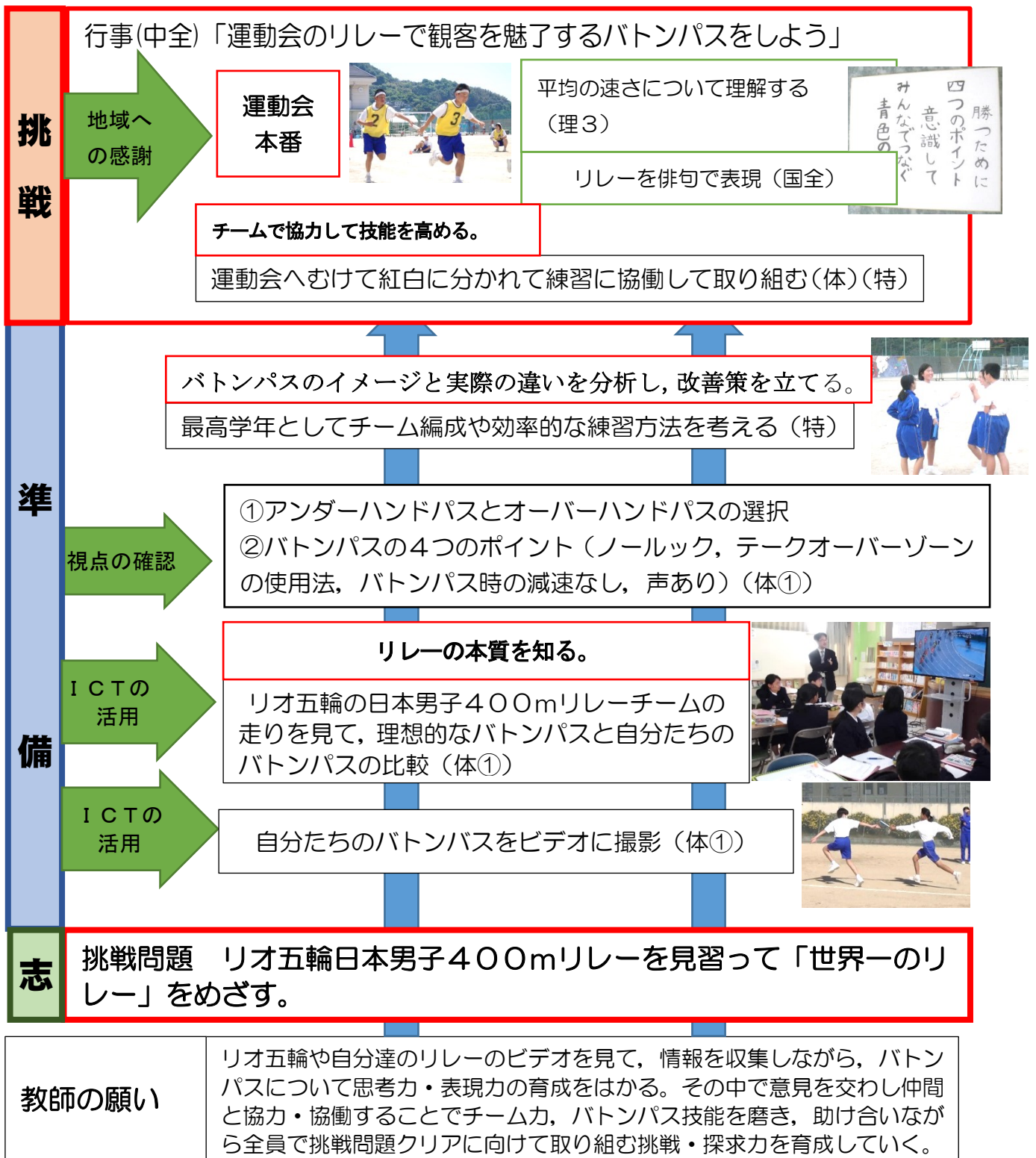
挑戦問題「掛け軸の謎を解こう！～さしがねの秘密～」
聖徳太子の持つさしがねで、円に内接する正方形の一辺の長さが一瞬でわかるのはなぜだろう？

教師の願い

平方根に関する知識や技能を身につけ、掛け軸の中のさしがねの角目の仕組みを協働して解明し、具体的な場面での数の平方根を用いることの必要性を実感し、さらに先人の知恵を深く探求する姿勢を育成していく。

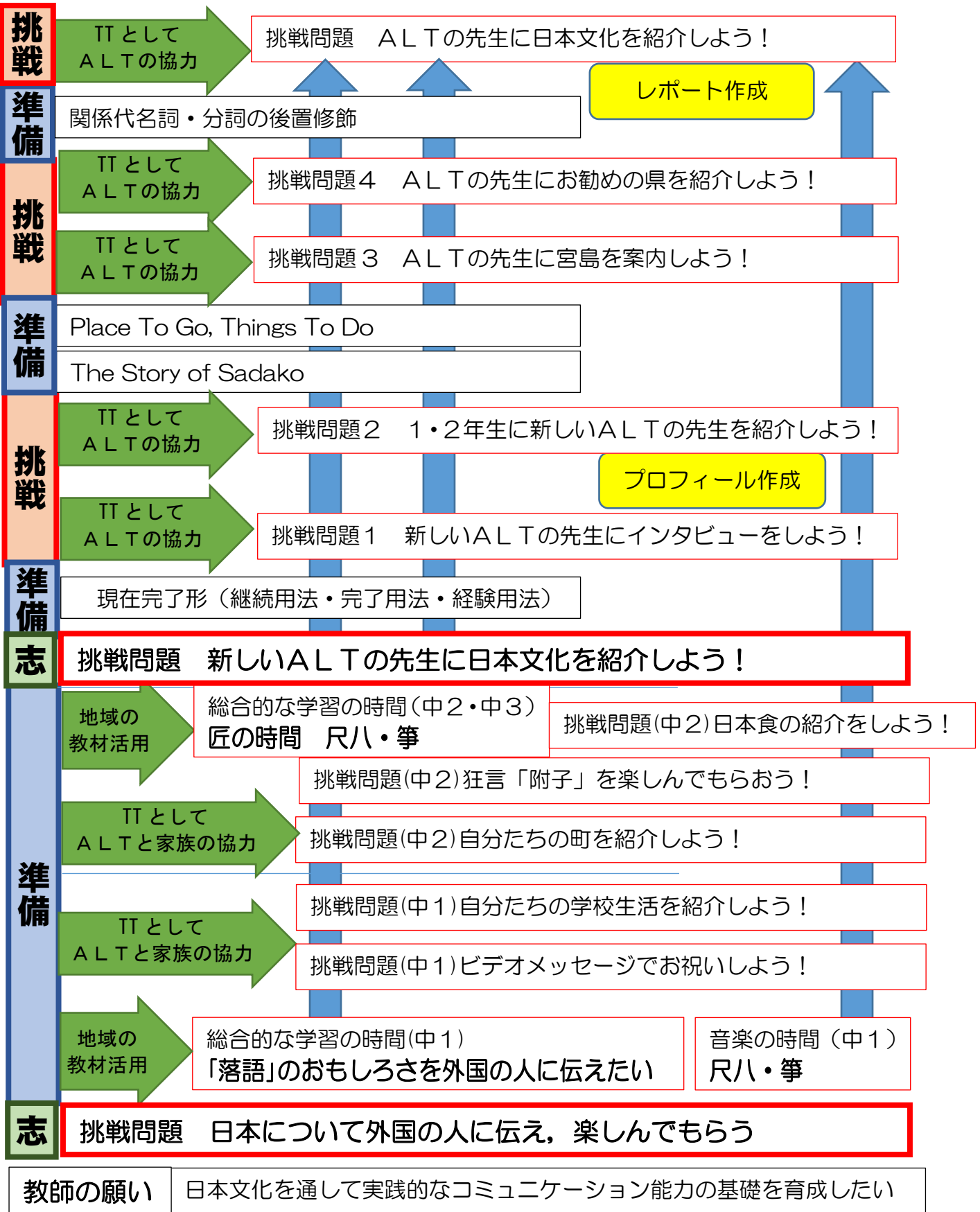
教科横断型
(保健体育+理科+国語)

挑戦問題「学園リーダーとして、運動会のリレーで自分のチームを勝利に導こう」で抱いた志を叶えるために、ICTを活用し、リオ五輪男子400mリレーチームと自分達のリレーのバトンパスを比較し、どうすれば、スムーズにバトンパスができるか考え、実践した。運動会という場を利用することで、発表する場をもって、モチベーション高めることができるカリキュラムにマネジメントした。



教科横断型
(英語+総合的な学習の時間)

ALTの先生や外国の人に日本文化について紹介する挑戦問題を1年生次から系統的に設定し、実践的なコミュニケーションの場面で習得した知識・技能を活用する喜びを、次の探究活動への意欲・関心につなげるようにした。



教師の願い

日本文化を通して実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成したい